

ら「フリーターを使い捨てるな」と叫んで歩いた。

率いたのは二年前まで九州大学の大学院生だった小野俊彦さん(ミ)。在学中から派遣の仕事やアルバイトをして暮らし、比較社会文化の博士課程を途中でやめた後も「決められた時間に拘束されずに働きたい」とパート労働を続けた。

しかし、派遣社員としてテスト作りをした塾と講師として勤めた予備校は、い

デモで不満をぶちまけた

が、場違いな大音量に返ってきたのは冷たい視線や「働け」といった怒号。拍手を受けたのはごくわずかだった。

昨年春、九州大で理学博

ワーキングプア

士になったのは、高校時代は、高校時代に面白さには付の無給の「森羅万象の普遍性をした」とる。

博士号の友人は「将んだ。自身として充実描いた。

北九州

火星と木星の間にある小惑星帯の二つの天体に「Kitakyushu (北九州)」「Tobata (戸畑)」の名が付くことになった。小惑星を数多く見つけているアマチュア天文家の関勉さん(モ)高知市が、国際天文学連合(米国、IAU)に申請し、近く承認される見通しで、関係者は「市民が星に関心を持つきっかけになれば」と喜んでいる。

命名予定の「北九州」(小惑星番号46595)は一九九二年十二月に、「戸畑」(同46596)は九三年一月に関さんが発見。いずれも肉眼では確認できない十五等級ほどの明るさで、直径は数センチ程度という。

天文家 小惑星に命名

命名のきっかけは二〇〇七年十月、北九州市戸畑区の九州工業大で、子どもの理科離れを食い止めようと開かれた天文講演会。招待された関さんが講演後に「星の名前をプレゼントします」と申し出た。

小惑星の命名権は原則、第一発見者にあり、申請に基づいてIAUが承認する。関さんは約二百二十の小惑星を発見しているが、まだ半数ほどは名前を付けておらず、「何か記念になればと名付けることにした」と話している。

名前が付いた小惑星は約一万三千あり、「長崎」「熊本」「鹿児島」など九州ゆかりのものも十数あるという。

地元講演が縁

戸畑